

河北抄

本年度の河北文化賞を受賞した彫刻家・画家の武藤順九さん(69)は「風の環」と題した一連の彫刻作品で知られる。正対する面をなぞっていくと次第に裏面に至り、さらに進むと正面に戻ってくる「メビウスの輪」と言われる面構成が最大の特徴だ。

設置場所の中には、ローマ教皇の別荘や仏教の聖地インド・ブッダガヤなど世界各地で「聖なる場所」とされる所がいくつかある。制作の依頼が入ると、武藤さんは現地を訪ね、イメージを探る。

基本は「メビウスの輪」だが、個々の形はだいぶ異なる。ブッダガヤでは「円」を、ネイティブ・アメリカンの聖地米ワイオミング州のデビルズタワーでは「子宮」をそれぞれイメージした。

来年春ごろにオープンする石巻南浜津波復興祈念公園(石巻市)に設置予定の「風の環 絆」はハート形だ。東日本大震災の直後、がれきの中で見つけた双葉がモチーフ。「過酷な状況下でも芽を出す力強さに感動した」と武藤さん。

海風を受けて立つ彫刻がどんな表情を見せるのか。楽しみに待ちたい。